

学番	48	県立加茂高等学校
----	----	----------

令和5年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画				
学校運営方針		100年の歴史と伝統にふさわしい学校 —以下のような生徒に育てることができる学校— ○ 何ごとにも懸命に取り組み、本校で学んでいること、学んだことを誇りに思う生徒 ○ 知・徳・体を鍛え、前向きで勁（つよ）く生きる生徒 ○ 志を高く持ち、目標の達成に向けてひたむきに努力する生徒		
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標	
感染症対策等を工夫した上で、体育祭、修学旅行や加茂高マルシェなどを実施することができた。 基礎学力定着のための放課後講習や個別指導により、生徒の進路目標が概ね達成された。 制服着こなし日本一のスローガンの下、継続的に身だしなみ指導を行った。 今年度は、多様な進路目標に対応するための個別指導など、放課後の時間をさらなる有効活用を図る。		・基礎学力の定着 ・学習意欲の向上 ・進路指導の充実 ・大学進学希望者、成績上位者の一層の学力向上	①ICTを活用した授業改善を図る。 ②学習習慣を身に付けさせる工夫をする。 ③生徒の進路目標達成に向けて、進路指導部と学年で組織的に取り組む。 ④大学進学希望者への指導を工夫する。	
		・基本的な生活習慣の確立のための支援と指導 ・自他を認め合い高め合う生徒の育成を図る ・地域から信頼され、愛される生徒の育成	①情報モラル教育の充実 ②いじめの起こりにくい、いじめを許さない学校づくり ③生徒が安心、安全な学校生活を送れるよう支援と指導を行う。	
		・部活動加入率の向上をはかる ・社会貢献意識の養成 ・地域に開かれた学校づくり	①信頼される学校づくりのため、地域・保護者との連携を深め、学校の教育活動の積極的な発信を行う。 ②学校行事や部活動を通して豊かな人間性と社会性を育む。 ③生徒会憲章の意義を反映させた行事の実施。	
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
教育活動の充実	授業時間の有効活用を図る	授業時数のバランスを整える。		B
		授業時間を確保し、年間計画を適切に作成する。 カリキュラムを円滑に運用する。		A
読書環境の整備とPTAとの連携	図書館利用の促進	職員の要望を積極的に取り入れ、図書資料を充実させる。		A
		図書館だより等を発行し、新刊図書の情報提供や図書館企画の紹介等PRに努める。		A
	視聴覚機器の充実	前年度の機器の利用状況を踏まえての増設や要望に沿った機器の導入を積極的に行い有効活用する。		A
(総務)	PTA広報誌を発行する	保護者と協力し、広報誌「一志川」を発行する。		A
	学習環境を整える	花壇整備等を行う。		A
PTA企画（加茂高マルシェ）を実施する。		A	A	

お互いの個性や多様性を認め合い、安心して学校生活を送れるような環境作り (生徒指導)	身だしなみ指導	頭髪や服装を整える意味を生徒と確認し合いながら、丁寧に指導をおこなう。各種指導の際は担任を通し、保護者と連携して指導を行う。	A	A
	交通安全指導	街頭指導や下校指導、自転車・バイク通学生対象の実技講習会を実施し、交通マナーの向上を図る。	A	
	遅刻防止に努める	定期的に遅刻指導を行う。 遅刻が多い生徒には個別に指導を行う。	B	A
	生活指導委員会	定期的な自転車の施錠点検、挨拶運動などを行う。	A	
	自主的自治的能力の育成	生徒の主体的な運営により、体育祭・文化祭・スポーツ大会などの学校行事を充実させる。	A	A
進路実現のための環境整備 (進路指導)	進路決定に必要な能力を引き出し、適正な勤労観・職業観を育む(1年)	進路意識の高揚を図り、自らの進路について早期から主体的に考える姿勢を養うため、外部組織と連携した講座、講演会等を企画・運営する。	A	A
		基礎学力の定着を図るため、補習や模擬試験を企画する。	A	
		「学年便り」などにより、進路情報を提供する。	A	
	進路意識の一層の啓発を図り、基礎力の定着と応用力を養う。(2年)	さらなる進路意識の高揚を図り、自らの進路の目標を明確にさせるため、外部組織と連携した講座、講演会等を企画・運営する。	A	A
		基礎学力・応用力を養うため、進路別補習及び模擬試験を企画する。	A	
		「学年便り」などにより、進路情報を提供する。	A	
	個に応じた支援により進路希望を達成する。(3年)	実践力を養うため、進路別の補習及び模擬試験を企画する。	A	A
		多様な試験方式への対応力を養うため、面接・小論文指導などを企画する。	A	
		「学年便り」などにより、進路情報を提供する。	A	
健康な心身の育成と保健美化 (保健)	充実した高校生活を送るために、心身両面から支援する	身体計測や各種検診を実施し、生徒の健康状態を適切に把握する。	A	A
		心身の健康問題の早期発見、早期対応に向け、健康相談、健康観察の充実を図る。	A	
		保健日よりや掲示物、日常の指導により生活習慣の重要性を理解させ、健康に対する意識を高める。	A	
	学校環境を整える	屋内外の校内美化について、全校で取り組む体制を整える。	B	B
		学校環境衛生検査(定期、日常)を実施し、生徒の学習環境を整える。	A	
	保健整美委員会の活動を推進する	全校生徒に働きかけ、ゴミの分別や捨て方についての意識向上を図る。	A	A
健康に対する意識を高めるために、PR活動を推進する。		A		
情報機器の整備と活用 (ICT)	情報機材の整備	パソコン等の日常的な保守点検を中心に、周辺機器やアプリケーションソフトの充実に努める。	A	A
	ICTの整備	ICTを利用できる環境を整備し、授業等で活用できるようにする。	A	
基礎学力の定着と進路意識の啓発 (1学年)	基本的な生活習慣の確立	家庭と連携・協力し、規律ある生活習慣を身につけさせる。	A	A
	基礎学力の向上と家庭学習の定着	継続して予習・復習・補習指導を行い、学習習慣の定着を図る。	B	
	自己の生き方・在り方や進路に関する探究活動の充実	早期に進路についての意識を高めさせる。 各種講演会等を通して、「生き方・在り方」を考えさせ、「生きる力」や「主体的に学ぶ力」の育成を図る。	A A	

基礎学力の充実と進路目標の設定 (2学年)	基本的な生活習慣の確立・向上	家庭と連携・協力し、規律ある生活態度及び習慣を身につけさせ、定着を図る。	A		A
	基礎学力の向上と応用力の育成	継続して予習・復習・補習指導の充実とともに、課題等を通して学力の更なる向上を目指す。	A		
	進路目標の明確化	模擬試験等の準備学習や実施後の振り返りをもとに、課題の確認、学習相談を充実させる。	A	A	
		各種講演会等を通して、自己理解を深め、進路目標を明確にさせる。	A		
学力の充実と進路実現 (3学年)	最高学年としての責任感と自覚を持ち、自律的に行動する生徒の育成	家庭と連携・協力し、規律ある生活態度及び習慣を身につけさせる。	B	B	
		学校行事を通してコミュニケーション能力・リーダーシップの伸長を図る。	B		
		各自で情報を収集し管理する姿勢を促す。	A		
	学力の充実と個々の進路目標の実現	補習や添削課題を効果的に実施し、学力の定着を図る。	A	A	
		模擬試験等の分析結果をもとにして課題を確認し、学習相談等を充実させる。	A		
調和のとれた豊かな人間性の育成	各種講演会等を通して、社会の一員としての自覚と調和のとれた豊かな人間形成を図る。	A			
教科指導の充実 (国語)	分かりやすい授業の実施	年間授業計画表を作成・配付し、授業進度や指導内容を打合せて、取り組みやすく、わかりやすい授業を行う。	A	A	
	進路実現に向けた基礎学力の定着・充実	漢字・文法等の小テストを計画的に実施し、理解と定着を図る。	B	A	
		長期休業中に補習等を実施し、学力の定着・向上を図る。	A		
		個々の進路に対応した小論文指導を、必要に応じて行う。	A		
教科指導の充実 (地歴・公民)	ICT機器を活用し、生徒が分かりやすい授業の実施	教材研究を深め、内容を精選する。ICT機器を適宜利用する。Google クラスルーム等を利用し、生徒が主体的に学ぶ場を提供する。授業内容に合わせて地域の課題や時事問題を適宜とりあげる。	B		
		職員間の情報交換、教材検討を行う。	A		
		個々の進路に対応した教科指導を必要に応じて行う。	A		
教科指導の充実 (数学)	分かりやすい授業の実施	授業進度、考查範囲を教員間で打合せながら授業を進める。	A		
	基礎学力の向上を図る	教科書傍用の問題集等を提出課題とする。	A		
	大学合格のための応用力・実践力の養成	夏季補習を実施する。	A	A	
		個人指導を実施する。	A		
大学入学共通テスト対策を充実させる。	A				
教科指導の充実 (理科)	分かりやすい授業の実施	演示実験や生徒実験を工夫して行うとともに、科学的なリテラシーを養う。	A		
	基礎学力の向上	反復練習をすることで基礎学力の定着を図る。	A		
	豊かな自然観の育成	視聴覚教材を利用し、科学的な自然観を育てる。	A		

教科指導 の充実  (体育)  (保健)	基礎体力の向上	3年間を通して、ラジオ体操、筋力トレーニング、長距離走を継続して実施する。	A	A	A
	運動への興味・関心を高める	1、2年次では、多種目に触れさせ、運動を進めるための諸条件を十分に理解させる。3年次には自ら選んだ種目について、学習計画を立て、実践できるようにする。	A		
	集団行動での態度の育成	集団におけるルールを理解させ、授業に臨む姿勢や、服装・行動等について指導する。	A		
	健康・安全について理解を深める	健康についての考え方の変化を理解させ、生活習慣病や喫煙・飲酒・薬物乱用など様々な健康課題に対して、適切に意思決定・行動選択ができる姿勢を身につけさせる。	A		
	健康を管理、改善する資質や能力を育てる	生涯の様々な段階における健康の課題に対して、適切に対処できる知識を学ばせ、生涯にわたる保健・医療活動を適切に活用できる知識を身につけさせる。	A		
教科指導 の充実 (芸術)	基本的な知識・技術の向上	実技と理論を関連付けて学ばせ、基本的な知識と技術の向上を図る。	A	A	A
	創造力の育成	興味・関心を喚起する授業に努め、生徒が自ら工夫し、主体的に活動する意欲を育てる。	A		
		添削指導や鑑賞指導を充実させ、表現意欲を高め、創造力を育む。	A		
教科指導 の充実 (英語)	分かりやすい授業の創造	教材の研究や工夫を協力して行い、授業進度、評価方法について、科内での話し合いを密にしながら授業を進める。	A	A	A
	基礎学力の向上	単語、文法、音読、リスニング、速読テスト等を実施し、基礎学力の定着を図る。家庭学習に有効な課題を与える。生徒の能力に合った個別指導の機会を確保する。	A		
		英語検定や英語セミナー等を積極的に勧める。	A		
	進路希望実現	休業中の補習だけでなく、放課後の進学補習を充実させる。	A		
教科指導 の充実 (家庭科)	生活を主体的に営む態度の育成	生活の充実向上を図り、主体的に創造する資質・能力を育成する。	A	A	A
	生活を営むために必要な知識の理解と技能の習得	生活に係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して課題を解決する力を養う。	A		
教科指導 の充実 (情報)	基礎学力の定着・充実	反復練習することで、情報社会で生きるために必要な能力を習得させる。	A	A	A
	情報社会において必要な技能を身につけさせる	実習を通して、ワープロ、表計算等のソフトウェアの基本操作を指導する。	A		
人権教育 同和教育 の推進	講演会の実施	全校生徒対象の講演会において、事前・事後の指導を実施する。	A	A	A
	授業で実践する	12月の人権週間では、校長講話を軸として、学年毎に立てた計画を基に授業実践を行う。	A		
	職員研修会を充実する	県及び県同教、人権司和センターなどの各種校外研修会への参加を広く呼びかける。	A		
		校内において各学期1回ずつ校内研修会を実施し、管理職とも連携しながら、学校全体での人権教育指導力向上につなげる。	B		

総合的な探究の時間による自己の生き方、地域の課題の探究	自己の生き方を見つめ、自身進路や地域の課題について意欲を持って積極的に学び、主体的に思考・判断できる生徒を育成する	1学年では、職業や自己の進路に関するそれぞれのテーマを設定し、調べた内容を発表原稿にまとめ、プレゼンテーションを行う。	A	A
		2学年では、探究活動として「地域と私」をテーマとし、「加茂」「長崎」の2つの地域を調べ、現地を探索し、まとめを行う。進路探究としては、外部講師を招く講演会、小論文指導、将来設計を行う。	A	
		3学年では、「地域探究」を発展させ、地域を広げて三条燕地域の産業を探究する。「自己実現・進路実現」では目標とする進学先や就職先に関する情報を収集するとともに、実現のためのスキルを身につける。また、総合探究の集大成として、課題研究も行う。	A	
成果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国公立大学に7名の進学者が出たほか、私立大学や専門学校への進学や就職など、多様な進路目標に応じた丁寧な指導による成果がでた。</li> <li>・ ICTの活用を進め、オンラインでの授業配信による学習保など、授業や探究活動等で活用することができた。</li> <li>・ 基本的な生活習慣等の指導が徹底され、集団生活を送る上での規範意識が定着してきている。</li> <li>・ いじめ対応等について、組織的な対応ができ、生徒は落ち着いた学校生活を送っている。</li> </ul>	総合評価	A